

研修事業評価委員会議事録

1、実施日時

平成30年10月24日(水)午後3時から

2、実施場所

福島刑務所会議室

3、参加者

(1) 教誨師(実行委員)・・・8名

中野重孝会長(実行委員長)、丹治正博副会長(実行副委員長)、丹治宥勝主事、木田恵嗣理事、木実谷明彦理事、玉木知顕会計、松浦知弘庶務、熊野龍喜会員

(2) 施設職員・・・2名

大隅一郎統括矯正処遇官(教育担当)、横澤昌希主任矯正処遇官(教育担当)

4、議事

(1) 事前準備について

- 6月15日 第1回実行委員会開催(場所 福島市 はりまや)
- 7月6日 第2回実行委員会開催(場所 福島刑務所会議室)
- 8月3日 第3回実行委員会開催(場所 福島刑務所会議室)
- 8月31日 第4回実行委員会開催(場所 ザ・セレクトン福島) 会場確認
- 9月12日 第5回実行委員会開催(場所 福島刑務所会議室)
- 10月2日 臨時総会 (場所 福島刑務所会議室) 大会役割確認

- ・大会案内発送(来賓・教誨師会)と公官庁へ案内状持参(福島県知事・福島市長・検事正)
- ・講師との打合せ(中野会長が直接面接)

(2) 大会当日について

- ア 研修討議テーマ「未来へ」は、被収容者に自己を洞察して健全な思想・意識・態度を身につけさせ、未来を拓く精神を培うことを目的とした。教誨師にとっても日々の、教誨の原点を見つめ直す意味で、求められていたタイムリーなテーマであった。
- イ 研究討議は、成人施設、少年施設を担当する各々の教誨師から日々の教誨の様子や思想が発表された。また施設応援者からは教誨師の活躍ぶりや人柄も紹介され、実のある教誨に努めている姿を感じ取ることができ、研究討議は今までになく充実したものになった。
- ウ アンケート集計からは、一昨年に続き大方の参加者から「非常に満足度の高い研修会であった。」との好意的な評価を得ることができた。
- エ 開会式典での挨拶が冗長であり、改善を要すると感じた。
- オ 新たな試みとして一日研修を企画開催したが、支障なく例年どおりの参加人数を得

- られ盛会であった。また、懇親会は実施しなかったが、特に不満の声は聞かれなかった。
- カ 会場は一昨年前と同会場であったため、慣れた環境の中で運営ができた。前回の反省より利便性を高め、受付場所を研修会場前に設置し分かりやすい配置に努めた。
- キ 前回の反省より、教誨師会側と施設側の綿密な計画、連携により研修大会が全般において順調、スムーズに運営された。
- ク マスコミへの対応については施設側、教誨師側より1名ずつ担当者を配置した。翌日、地方新聞2紙に研修大会の様子が写真入りで掲載された。
- ケ 立教大学基督教学科ゼミの教授1名、大学生4名による研修大会傍聴と教誨師へのインタビューを受け入れ対応した。

(3) 今後について

- ア JKA補助事業に関する書類作成、経理関係の事務処理、各方面への礼状発送、記録誌の作成のため役割分担して進めるとともに、今後実行委員会を適宜開催する。
- イ 経費節減のため、会場の選定と効率的な運用を検討する。

以上